令和６年度第１回埼玉県立近代美術館協議会会議録（抄録）

１　開 催 日　令和６年８月２９日（木）

２　時　　間　午後２時００分～午後４時００分

３　場　　所　埼玉県立近代美術館３階会議室

４　出席委員　秋本　文子、森田　豊、寺久保　文宣、山田　明子、岡野　啓子、
青木　聖吾、井口　壽乃、谷口　周子、野中　味惠子、吉野　律

５　欠席委員　代田　一貴、山田　志麻子

６　事務局出席者

館長	建畠　哲
副館長	藤倉　陽子
副館長	平野　到
総務・管理担当部長	栗林　雅志
常設展・収蔵品担当主任学芸員	大浦　周
企画展担当主任学芸員	吉岡　知子
教育・広報担当課長	平井　良子
教育・広報担当課長	岡村　安佑美
総務担当課長	宮田　美香
総務担当主任	佐藤　耕史

７　教育局出席者　　文化財・博物館課　主事　金井　雅博

８　進行の概要

（１）開会

（２）館長挨拶

（３）任命状の交付

（４）協議会委員および美術館職員紹介

（５）協議会会長、副会長選出

会長に井口委員、副会長に森田委員が選出された。

（６）会議録署名委員指名

会長から署名委員として青木委員、野中委員が指名された。

９　議事の内容と質疑応答
（１）報告事項・意見

ア　令和５年度事業報告
　事務局から会議資料及び映像を使用して、常設展示事業、企画展示事業、美術作品収集事業、一般向け普及事業、美術館の利用促進事業、子供向け事業、学校との連携、ボランティア活動、「椅子」の有効活用、一般展示室の利用状況、入館者数、決算の概要について報告を行った。

【主な質疑応答等】
委　員　（アブソリュート・チェアーズについて）愛知県美術館と埼玉県立近代美術館との共催ということで、巡回していくことの素晴らしさもあるが、正にここでしか見られない、ここでこそできる唯一無二の企画だったと思う。すごく感動して拝見した。よかったと思う。

委　員　屋外彫刻のことについて、彫刻ボランティアがされている、洗って触ってみるということは、美術品をなかなか触ることがない中、貴重な体験ができる取組だなと思っている。先ほど絵を描いて、それを実際作って食べてみるという公募展があったが、それも平面的なものだけでなく、立体的かつ実際それを口に入れて味わってみるという、五感で楽しむということに取り組まれているのはとても良いと思う。多方面のボランティア、一般の方、学生、先程アーティストの方という話もあったが、これはボランティアか分からないが、沢山の外の人を取り込んで一緒にやっていくという取組がとても評価できると思う。

委　員　昨年度５月にコロナが緩和されて本当に大変な対応だったと思うが、様々な事業を工夫しながら進めていただいたり、子供向け事業や親子対応など、子供たちの興味関心や感性を豊かに育成していただいていることに感謝申し上げる。ぜひこれからも継続して取り組んでいただけるとありがたいと思う。

委　員　椅子の切り口の展示について、私は美術専門ではないので、ピントが外れていたら申し訳ないのだが、大変面白いと思った。美術館の仕事というと深く掘り下げて、まだ一般に知られていない方の作品を世に知らしめるということもあれば、この椅子の展示のようにテーマを横に連動させながら、皆さんに見せるということもあるんだなと大変興味深く拝見した。今後のことについて、門外漢ながら一つ提案させていただくと、企画展が４回ある中で、１回は横のもので企画をするというのも面白いと思う。例えばこの夏はオリンピックがあったので、「オリンピックと絵画」とか「近代美術と近代オリ

ンピック」とか、そういう風に横のもので括ってみるとか、そのようにしてみると「音楽と美術」「〇〇と美術」という括りでやってみると、今年の夏休みに近代美術館は何の展示をやっているのかなと興味を持っていただけると思う。今年の企画展を見るとメキシコ（に関連する展示）もある。メキシコのショップや物産展も入れてみるなど、施設や公園を活用しながら、何か楽しいと思うものがあると、行ってみようかとなると思う。門外漢ながらそのように感じた。

委　員　部分的な感想ではないが、埼玉県立近代美術館はコンセプトに沿って、企画展としても深いものをされていると思う。吉田克朗氏は非常に懐かしいお名前。とは言え、こうした方向性というのは、私の感覚で言うと、１９７０年代ぐらいに世界の美術館などが始めた方向で、この近代美術館もどちらかと言うと新しいものの見方や価値観というものを皆さんにどんどん提供していく方向なのではないかと思う。それは世界的に見るともう５０年くらいになる。私も美術の絵の方の部門にはなるが、全国的には美術というのは、一部はとても素晴らしいが、結構低調である。そう言ったことを含めて、美術というものを根本的に見直していかなくてはならない時期に来ていると思っている。

　それと入場者数や企画展に対する評価は、自分たちもそうだが、ここ数年の経緯くらいしか出ない。開館の時に例えばこの企画の時はこんなに人が集まったなど、もっとダメだったときもあるかもしれないが、人数がこう動いているなど、大きな流れを見ていきたいなと思う。そうするとあの頃はこうだったなと結構皆悲しい気持ちになる。時代もあるが、全体的に大きな上げ潮のムードの時だった。それはそれで、その中でのあり様というものをもう少し見直していかなくてはいけないかなと思う。ただやはり、どこも今までの考え方や価値観があるので、勢いが良かった時の花火の上げ方を求められるところもあるが、現代ということを含めて、そういうのも他でも十分にお話されているかと思うが、何か根本的なことも伺えたらと思う。あまり建設的な意見とは言えないが感想として言わせていただいた。

委　員　先程委員からお話があった、長いスパンでの入館者数の推移というのは何か統計や記録など取られているか。

事務局　それについては改めてお見せしたいと思う。

　やはり一つ言えることは、この美術館ができたのでは１９８２年だが、それから都内に有名な美術館がいくつもできてお客様が分散したと同時に趣味の多様化というものがあるので、８０年代にこういうテーマをやれば人が集まったというようなものを単純にやっても人がなかなか集まらない時代になってきていると実感している。美術館の特色をできるだけ出していって、

確実な人に毎回来ていただくというような手法もあるのではないかなど、館内で様々な観点から検討しているところである。

委　員　そういう意味ではすごく頑張っていると思う。

イ　令和６年度事業実施状況

事務局から会議資料及び映像を使用して、常設展示事業、企画展示事業、美術作品収集事業、一般向け普及事業、美術館の利用促進事業、子供向け事業、学校との連携、ボランティア活動、「椅子」の有効活用、入館者数、予算の概要について説明を行った。

【主な質疑応答】

委　員　アーティスト・プロジェクトの選考にあたって、どういう基準でセレクトされているのか。例えば、学芸員の方が順番で回している又はメインの企画に対して観覧された作家をダイレクトになど、そのあたりの選考の基準についてお聞きしたい。

事務局　アイデアやプランに関しては、学芸員全員で案を出し合っている。当番制などではなく、学芸部会の中でどういう作家がいいか館長を含めて皆で議論して決めている。展示場所の問題もあり、どこの場所を使えるか、いつの会期とするかという問題もあり、そういったことを調整しながら作家を選んでいる。

委　員　すごくリアルタイムでメインの企画展とはまた違った入り方をするプログラムだと思うので、非常に興味を持って拝見している。是非これからも続けていって欲しい。

事務局　当初、アーティスト・プロジェクトは展示室以外の公園やロビー空間を活用するということも視野に入れながら展開しようということもあったが、公園でやろうとすると維持管理に大変お金がかかったり、展示室以外のところでやろうとすると監視を置かなくてはいけないなど、色々なハードルがある。そのあたりを今後調整できたら、多角的な方法で展開できたらと思う。

委　員　本日こちらに来た時に美術館の入口に小学生と思われる子供たちが沢山来ていてよいなと思った。本日の協議会の際に聞いてみようと思っていたが、先程事務局から説明があり、今年は「夏休みＭＯＭＡＳステーション」に３，０００人近くの利用があり、昨年よりも多かったと聞いた。良いことだし羨ましいことだと思ったので、もう少し詳しく伺いたい。サポートスタッフが毎日来て、子供たちに何を教えているのか教えてほしい。

事務局　サポートスタッフとしてボランティア７４人に登録いただき、１０年以上活動されている方もいる。夏休みＭＯＭＡＳステーションの期間は、午前１０時から午後４時まで、午前午後の２部制でボランティアが入口付近に常駐している。ボードに挟んだ教育普及の資料やワークシートを使用し、地下１階から３階、屋外彫刻等の作品を鑑賞した後、最後にスタンプを押すという形を取っている。子供たちが全ての作品を通して学びながら楽しめるようなプログラムを美術館で提供している。

委　員　北浦和公園は幼少期から馴染みのある場所で、近代美術館ができた時も覚えているが、印象としてはこちらの美術館は椅子というテーマを昔から一つシンボルとしてやっているイメージがある。市民の立場からしても、ぜひ館内だけではなく色々公園の外でもという話もあったが、浦和の中でもユニークなベンチだとか、美術の作品とはまた違ったコンセプトかもしれないが、もっと市民が美術を身近に感じられるような手段があればと思う。ベンチは一つの居場所だと思うので、アート的な要素があれば近代美術としても館内だけでなく身近なところでアートを感じられるようになるかと思う。

委　員　夏休みＭＯＭＡＳステーションについて、私の家庭にも小学生の子供がおり、今年も利用させていただいた。私自身も２０年前に近代美術館の教育普及の関係で、大学に出ていた時に１年間普及事業に参加させていただいたこともあった。

私は一緒に行けなかったが、祖母が一緒に付いていったことをきっかけに、祖母はしばらくコロナで美術館に行っていなかったが、その後毎月のように友達を誘って行っている。おそらく子供がキー（鍵）になって、周りの人たちを引き込みながら美術館の来場者が増大するきっかけになるのではないかと思う。また、今回人数が倍増したという話があったが、これは学校でも実感している。コロナ禍を経てミュージアムレポートという自由課題を出しているが、美術館等に行って来たら行ってきましたというレポートなどを出してもらっているが、今年は動きが活発になってきているなと感じている。

同時に、子供たちの数というのが激減してきているので、これから１０年先、２０年先の美術館、美術館の愛好者という仕組みを支えていくファンを開拓していかないと先細りになってしまうのではないかと感じている。なかなか美術館に足を運ぶことがなかった親や周縁を引き込む、ファン、応援者、を持つ人を増やしていく、このような視点で継続していただけるとよいと思う。

実は、群馬県の自然史博物館のミュージアム・スクールという生物・化学系のイベントに関わっている。生徒を募集して、毎月プログラムを行っており、私も引率で参加させてもらっているが、非常に面白い取組。関わると子供だけでなく親の方がかえって夢中になってしまう。昨年度のプログラムで

は、ポケモンと連動して、展示を行ったりしていた。ものすごい数の来場者がありとても驚いた。今年も色々な仕掛けを考えているようで、そういうところに参加しながら自分自身も美術館でもまだまだ色々な仕掛けができるのではないかなと、今年１年感じている。

ぜひ、教育普及の方々にチャレンジしてもらえるとありがたいなと思っている。

委　員　インバウンドの外国人の訪問者が日本に数多く訪れて、観光地の美術館や都内の美術館は賑わっていた。性格が違うかもしれないが、こちらの館では外国人入館者の数はいかがか。

事務局　カウントはしていないが、体感としては沢山ではないがやはりいらっしゃっていると感じる。会場に行くと外国の方が話をされてたり、アジアの方から留学している人が日本の美術のことに興味があるということで、イベントに参加されたりしている。割合としては少ないが昔より増えてきている。

ウ　博物館評価について

事務局から会議資料を使用して、令和６年度の博物館施設「目標設定・評価シート」について説明を行った。

【主な質疑応答】

委　員　４ページに危機管理の内容を入れていただいた。前回私が発言した内容だがありがたいなと思った。また、１階のインフォメーションの隣にＡＬ免震装置が置いてあり、近代美術館は動きが早いなと感じた。来年の３月まで実証実験中とのことだが、素晴らしい取組だなと思った。

事務局　補足させていただくと、埼玉大学に研究協力の提案をいただいた。まだ実証実験中だが、実際の地震が起きた時にどういうふうに機械が作動するのかということを一緒に検証していくことになっている。それをバックヤードではなく見られる場所でやったらいいのではないかということで、あの場所に設置している。ご興味ある方は、総合受付の裏側にあるので是非、ご覧いただきたい。

委　員　この美術館や公園は地域の避難場所に指定されているのか。

水や毛布などのストックは置いているのか。

事務局　公園の一角にさいたま市が管理する備品などがあるが、館内に受け入れるという形ではなく、公園を広域避難場所として一時的に滞在していただく形となっている。

委　員　館の使命ビジョンの２に「人々が集い、参加し、交流するための基地となります。」とあるが、とても共感できてよいと思う。様々な方がいると思うが、障害のある方への取組もされていて素晴らしいなと思うが、例えば展示では安全な誘導面の対応などはされているか。目だけではなく、身体や発達障害など様々な障害をお持ちの方がいらっしゃるが、その方々も含めて楽しめる、参加して、交流するための基地となるような取組をどんなふうに考えているかお聞かせいただければありがたい。

事務局　今、美術館ではアクセシビリティが非常に重視されている。どんな方でも美術館、博物館を利用するというのは非常に重要なテーマになっている。我々もノウハウ不足なところもあるが、詳しい方々と情報交換しながら少しずつ色々なことに対応できるようにしていきたい。

以前から取り組んでいることとしては、視覚障害者の方が美術館を訪れる時の鑑賞についての支援を行っている。それだけではなく、今後は色々な形でのサポートをしていかなくてはいけないと思っている。もしそういった何かノウハウをお持ちの方がいたら、是非、ご紹介いただきたい。

委　員　どのような方も、美術館に行ったら楽しめるという取組をしていくというのが重要かなと思う。自分も福祉の方で取り組んでいるので、可能であればそういうことも一緒に考えていけたらと思う。

委　員　館の使命・ビジョンというところを見て、非常に今の考え方にマッチしていると思うが、この館の使命・ビジョンというのは、取組を行う令和５年から令和９年の間のビジョンと受け取ってよいのか。それとも開館してからずっとこのビジョンは変わっていないのか。

事務局　こちらは令和５年から令和９年の限定ということではない。美術館の設置条例に県民の美術に関する知識・教養の向上という大きな表現になっているが、それを分かりやすく示したものが館の使命・ビジョンとなっている。令和９年度で達成したから終わりということではなく、美術館の目指すべき方向性として続けていければと考えている。

委　員　ここで改めて考えたということではなく、元々美術館ができた時からこのビジョンをもってずっと活動してきたということか。

事務局　文言は少し変遷があったかもしれないが、方向性としてはこのような形でやってきている。

エ　その他

事務局から資料に基づき入館者９００万人達成についての報告を行った。入館者９００万人達成については委員から意見なし。

（以上）